

テーマ展「彦根城－城の姿と城下町の暮らし－」展示資料リスト

番号	指定	名称	数量	制作年代	寸法(cm)	所蔵・資料群名
I 彦根城の姿						
1 彦根城の築城						
1		けいちょうごねんいぜんひこねこず 慶長五年以前彦根古図	1 枚	江戸時代	縦48.6 横68.0	当館・川原町高崎家文書
2	市指定	きまたとさのかみもりかつぶこうきねんじき 木俣土佐守勝武功紀年事記	1 冊	慶長15年(1610) 2月	縦29.6 横21.2	当館・木俣清左衛門家文書
3	重文	とくがわひでただはんもつ いいなおつぐあて 徳川秀忠判物 井伊直継宛	1 通	慶長9年(1604) 7月15日	縦46.6 横66.6	当館・彦根藩井伊家文書
4	重文	こひょうぶしょうゆう うこんだ ゆう こかもんのかみ 古兵部 少 輔・右近大夫・古掃部頭 ならびに せがれども さきのかもんのかみまた ふる 井 倅 共・先 掃部頭 又ハ古キ けらい ども おぼえがき 家来 共 覚 書	1 冊	元禄10年(1697) 8月8日	縦26.6 横17.0	当館・彦根藩井伊家文書
5	重文	こんきさんでんき 金亀山伝記	1 冊	江戸時代	縦24.7 横14.6	当館・彦根藩井伊家文書
6		しんこやなみき 新古家並記	2 冊	江戸時代	縦23.7 横16.2	当館・井伊家伝来典籍
2 彦根城の城郭構造						
7	市指定	ごじょうないおんえず 御城内御絵図	1 枚	文化11年(1814) 6月	縦180.0 横265.0	当館
8	重文	えどぼくふろうじゅうほうしよ 江戸幕府老中奉書	1 通	明和3年(1766) 8月27日	縦47.6 横56.3	当館・彦根藩井伊家文書
9	重文	えどぼくふろうじゅうほうしよ 江戸幕府老中奉書	1 通	嘉永7年(1854) 閏7月25日	縦40.5 横56.0	当館・彦根藩井伊家文書
II 城下町の暮らし						
1 町人はどこからやって来たか						
10		しらかべまちごうおんあらため 白壁町古郷御改	1 冊	慶安2年(1649) 6月	縦27.2 横20.4	当館・白壁町衣斐家文書
11		てんままちごうあらためちよう 伝馬町古郷改帳	1 冊	寛文5年(1665) 3月4日	縦27.1 横19.6	当館・伝馬町文書
12	重文	おおほらへんざいてんしどうきんきしんちよう 大洞弁財天祠堂金寄進帳	3 冊	元禄8年(1695) 7月1日	縦27.5 横20.0	当館・彦根藩井伊家文書
2 城下町の街区						
13	市指定	ごじょうかそうえず に (ほんまち・せりぐみ) 御城下惣絵図 弐 (本町・善利組)	1 幅	天保7年(1836)	縦113.0 横134.2	当館
14	市指定	おんじょうかそうえず ろく (なかぐみ・かみぐみ・しんま 御城下惣絵図 六 (中組・上組・新町・ ち・なまがり) 七曲がり)	1 幅	天保7年(1836)	縦190.5 横134.5	当館
3 城下平田町の人びとの暮らし						
15	市指定	ひらたまちいえなみず 平田町家並図	1 枚	宝暦5年(1755) 10月28日	縦45.6 横83.2	個人・中村尚家文書
16	市指定	ひらたまちほんやかしやちゅうれんいんふれがきうけしよ 平田町本屋借屋中連印触書請書	1 通	慶安2年(1649) 8月22日	縦28.1 横165.4	個人・中村尚家文書
17	市指定	ひらたまちさだめがき 平田町定書	1 冊	明和3年(1766) 1月24日	縦28.2 横41.2	個人・中村尚家文書
18	市指定	こんやきへいえいやくしきゆずりしょうもん 紺屋喜兵衛家屋敷譲証文	1 通	宝永7年(1710) 11月	縦31.2 横65.2	個人・中村尚家文書
19	市指定	はちろうざえもんいやくしきゆずりしょうもん 八郎左衛門家屋敷譲証文	1 通	正徳5年(1715) 5月	縦31.0 横43.6	個人・中村尚家文書
20	市指定	こころの茎 ^{くき}	15冊 の内 5冊	文政2年(1819)年 ～天保4年(1833)	縦27.2 横19.8	個人・中村尚家文書

写真解説

1 御城内御絵図 1枚 【展示資料リスト7】

彦根市指定文化財

縦 180.0cm 横 265.5cm

文化11年（1814）6月

当館蔵

彦根城の主郭（内堀の内側）を描いた絵図。彦根藩の普請方^{ふしんかた}が作成した公的な図。現存する彦根城郭の絵図ではもっとも正確かつ詳細なものである。彦根藩普請奉行の大久保藤助と柏原与兵衛の名が記されており、石垣や土手などが色分けされ、その寸法が詳細に記載されていることから、城郭内の現状把握のために作成され、補修などで活用されたものと考えられる。彦根城を建設するにあたり、彦根山を削って山頂部と山裾に平地をつくっていることや、周囲の石垣や、堀切の様子がよくわかる。



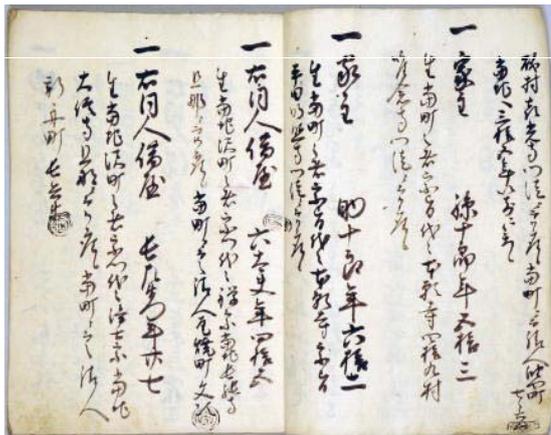
2 伝馬町古郷御改帳 1冊 【展示資料リスト11】

縦 27.1cm 横 19.6cm

寛文5年（1665）3月4日

当館蔵・伝馬町文書

彦根城下の伝馬町（現、中央町）の住民について、その出身地（古郷）を調査し、記録した帳面。彦根藩の命令により調査が実施されたと考えられる。同町は城下町東部を縦断する朝鮮人街道に面した町で、城下町を出入りする荷物の発着地、他国商人らの宿泊地として栄えた。この帳面には、家主^{やぬし}が42人、借家が63人、計105人の名前と、年齢、出身地、宗旨、檀那寺^{だんなでら}、来住年が記される。寛文5年当時の同町は、家主は伝馬町生まれが多くを占めるのに対し、借家人は城下の他町や村方からの来住者が多かったことがわかる。また、記載内容から、彦根城築城に伴い城下町開発が始まった慶長9年（1604）に伝馬町が開発が始まっていたことがうかがうことができる。



3 こころの茎^{くき} 15冊の内5冊 【展示資料リスト20】

彦根市指定文化財

縦 27.2cm 横 19.8cm他

文政2年(1819)～天保4年(1833)年

個人蔵・中村尚家^{なかむらたかしけもんじよ}文書

彦根城下の東南部に位置する平田町^{ひらたまち}(現、京町一丁目・錦町の一部)で、酒および醤油の醸造・小売り業を営み、町役人を務めた中村全前^{なかむらみちやす}が記した日記。文政2年(1819)45歳の時から天保4年(1833)59歳の時までの15年間15冊が伝わる。家の商いに関することや、家内の年中行事の様子、彦根藩士や城下町町人などの周辺の人びととの交際の様子など町人の暮らしぶりを具に知ることができる。また、書物の読書や、俳諧を趣味とする人びとの交流など、当時の地方城下町町人の文化活動の様相をうかがうことができる貴重な資料でもある。

